

「つい」「うっかり」で石油ストーブの事故が発生しています

ふたの締め方が不十分で引火

事例
建物が全焼する火災が発生し、1人がけがをした。(2009年1月 新潟県)

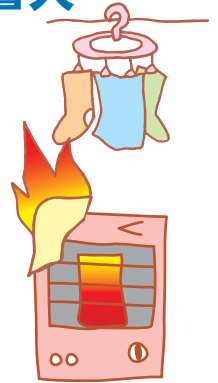
原因
石油ストーブの火を消さずに給油した際、カートリッジタンクのふたの締め方が不十分だったため、灯油がもれて引火したものです。



洗濯物が落下して着火

事例
近隣の建物が全半焼する火災が発生し、1人がやけどを負った。(2010年3月 新潟県)

原因
石油ストーブの上で干していた洗濯物が落下して火がついたものです。



ガソリンを誤給油

事例
石油ストーブから異音が出て出火し、建物が全焼して1人が死亡、1人がけがをした。(2010年4月 兵庫県)

原因
石油ストーブに誤ってガソリンを給油したため、異常燃焼をおこしたものです。



給油の際は、必ず火を消してください。また、カートリッジタンクのふたがしっかりと締まっているか確認してください。

上部などで洗濯物を干さないでください。カーテンや布団など燃えやすいものの近くで使用しないでください。間違えてガソリンを入れしないでください。

多くの電気製品を使う冬場はコードの事故に要注意

巻き付けていたコードから発火

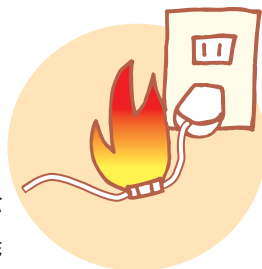
事例
火災が発生して1人が死亡した。電気毛布の電源コードをベッドの柵に巻き付けて使用していた。(2008年7月 東京都)

原因
電源コードを巻き付けていたため、コードに負荷がかかって半断線して、火花が出て発火したものです。

自ら修理したコードから発火

事例
電気ストーブから出火する火災が発生し、ストーブとその周辺が焼けた。(2009年12月 大阪府)

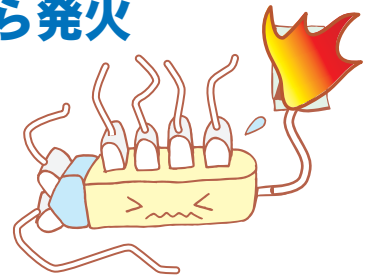
原因
自らコードを手より接続したため、接触不良となって異常発熱し、ショートして発火したものです。



テーブルタップの電源プラグから発火

原因
テーブルタップを接続していたコンセント付近から発火し、壁が焼けた。(2011年2月 奈良県)

事例
テーブルタップに定格電流を超える電気製品を使用していました。そのため、電源プラグのコード芯線が異常発熱して断線し、火花が出て発火したものです。



コードを曲げたりねじったりしないでください。また、傷つけたり踏み付けたりしないでください。束ねたり、金具で固定して使用しないでください。コードの芯線が断線して発火の原因となります。自らコードや電源プラグなどの修理、改造はしないでください。テーブルタップに表示された定格電流を超えないようにしてください。

 このマークは、取り扱いを誤った場合、重篤な被害を負うことが予想されますので注意をお願いするものです。

